

問題 話すこと・聞くこと①

名前	年	組
----	---	---

田中さんたちは、今年の図書委員の委員会活動についての話し合いをしています。これを読んで問題に答えましょう。

田中… 今年の図書委員会の活動について考えたいと思います。

① この表は、図書室に来た人の数と貸し出した本の数を月ごとにまとめたものです。これを見ると、② もっとたくさんの人に本を読んでもらえるように、新しいことに取り組みたいと思います。何か意見はありますか。

東野… 本を読んだ人に、その本のすいせん文を書いてもらい、それを本だなにはるのはどうでしょう。本を手にとってもらいやすくなると思います。

田中… どのようにしてすいせん文を書いてもらうのですか。

東野… 本の最後のページに「感想カード」をはさんでおいてはどうでしょうか。本を借りた人が書いてくれたら、そのまま本だなにはることができます。

北川… ③ その本が置いてある本だなにカードをはるのですね。本屋さんで、似たようなものを見て、その本をとって読みたくなったことがありました。

東野… はい、書店員さんのすいせん文によって、その本を読む人が増えることもあるそうです。

南… 本をしようかいするカードの案はよいと思います。しかし、それでは図書室に来ない人には見てもらうことができません。

西田… 同じものを学校のけい示板にもはってもらうてはどうでしょう。

北川… けい示板にはると、多くの人が見てくれそうですね。せっかくなら、④ ふだんはあまり本を

読まない人が、カードを見て読みたくなったと思うようなくふうをすると、もっとよいと思います。

西田… そうですね。では、スポーツに関係する本のカード、歴史に関係する本のカードのように、カードを分野ごとに分けて、興味のあるものを見てもらうようにしてはどうでしょうか。

北川… 書いてもらったカードをそのままはるのではなく、読みやすく目立つカードを作るとよいと思います。

南… それはよいですね。そのほかに、季節の行事やニュースなどをとりあげて、それに関する本のしようかいをしてはどうでしょう。たとえば九月なら、中秋の名月と関連付けて、月に関する本をしようかいするカードを作ってはどうかでしょうか。

田中… それなら多くの人に興味をもってもらえそうですね。それでは⑤

これは

問題1

次の表は、――①で田中さんがしようかいしたものです。これを見て、――②――にあてはまるものを、ア～エから選んで記号を書きましよう。

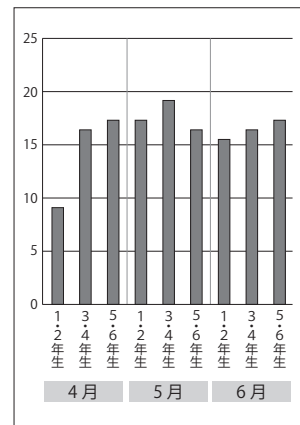


表1 図書室に来た人の数(人)

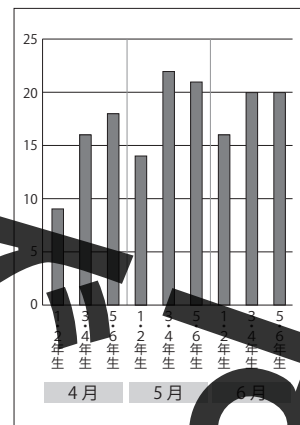


表2 図書室で貸し出した本の数(さつ)

ア 一か月に一さつは本を読む人が多いことがわかるので、
イ 高学年の方が本をたくさん読んでいることがわかるので、
ウ 本を借りる人の数が減っていることがわかるので、
エ 図書室に来る人数はだいたい決まっていることがわかるので、

問題2

――③の北川さんの発言について説明したものを、ア～エから選んで記号を書きましよう。

ア 直前の発言に対し、自分が知っていることに結びつけて 賛成の意見を述べている。
イ 直前の意見とはちがう意見を述べるために、自分の知っていることを述べている。
ウ 直前の発言に対し、わからないことがあるので、質問をして確かめている。
エ 直前の発言に賛成してから、これまではちがう話題について話している。

問題3

――④「ふだんはあまり本を読まない人が、カードを見て読みたいと思うようになった」とはどのようなことですか。会話文に出てきたことを、――にあてはまるようにして二つ書きましよう。

興味のあるものを見てもらうようにする。

それに関する本のしようかいをする。

問題4

みんなの意見を聞いた田中さんは、――⑤――で、これまでの話し合いをまとめる発言をしました。その内容としてふさわしいものを、ア～エから選んで、記号を書きましよう。

ア 感想カードを本たな以外の場所にはるのは取りやめにしたと思います。
イ すいせん図書を決めるのは、先生に手伝ってもらうことにします。
ウ 感想カードやしようかいカードを作り、校内にはることを進めたいと思います。
エ これからは、みなさんもたくさん本を読んで感想カードを書いてください。

解答と解説

問題1 次の表は、①で田中さんがようかいしたものです。これを見て、②にあてはまるものを、ア～エから選んで記号を書きましよう。

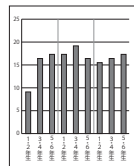


表1 図書館に来た人の数(人)

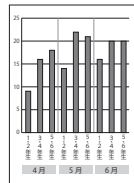


表2 図書館で貸し出した本の数(さつ)

ア 一か月に二つは本を読む人が多いことがわかるので、
ウ 高学年の方が本をたくさん読んでいることがわかるので、
エ 図書館に来る人数はだいたい決まっていることがわかるので、

エ

問題2 ③の北川さんの発言について説明したものを、ア～エから選んで記号を書きましよう。

ア 直前の発言に対し、自分が知っていることに結びつけて、賛成の意見を述べている。
イ 直前の意見とはちがう意見を述べるために、自分の知っていることを述べている。
ウ 直前の発言に対し、わからないことがあるので、質問をして確かめている。
エ 直前の発言に賛成して、これまではちがう話題について話している。

ア

問題3 ④「ふだんはあまり本を読まない人が、カードを見て読みたいと思うようになった」とはどのようなことですか。会説文に当てはまることを、ア～エから選んで記号を書きましよう。

カードを分野ごとに分けて、

興味のあるものを見てもうようにする。

季節の行事やニュースなどをとりあげて

それに関する本のようかいをする。

問題4

ア みんなの意見を聞いた田中さんは、⑤「て、これまでの話し合いをまとめる発言をしました。その内容としてふさわしいものを、ア～エから選んで、記号を書きましよう。」
イ すいせん図書を決めるのは、先生に手伝ってもらいたいと思います。
ウ 感想カードやようかいカードを作り、校内にはることを進めたいと思います。
エ これからは、みなさんたくさん本を読んで感想カードを書いてください。

ウ

問題1 表から読み取れるのは、どのようなことでしょうか。
表1と表2から、貸し出された本の数が増えたり減ったりしても、図書室に来た人の数はあまり変わらなことがわかります。そこで、答えはエです。田中さんは、「もっとたくさんの人に本を読んでもらいたい」と発言したのだと考えられます。

問題2

会話文の中で、それぞれの発言がどのような役わりをしているのか、考えましよう。③で、北川さんは東野さんの発言を聞いて「本屋さんで似たようなものを見て、その本をとて読みたくなった」と、自分の知っていることと結びつけています。それでは、何のために自分の知っていることを述べたのでしう。北川さんは本だにはってある感想カードを見て本を読みたくなったと言っているのですから、東野さ

んの意見に賛成しています。つまり、東野さんの意見に賛成であることを示すために、自分の知っていることと結びつけたのです。答えはアです。

問題3

どのようなふうをするか、具体的に説明している部分をさがしましよう。④の後の西田さんの発言には、カードを分野ごとに分けることが書かれています。さらに後の南さんの発言には、季節の行事やニュースをとりあげて、それに関する本をしようかいする案が書かれています。このように、だれかの意見について、他の人が具体的な事例や反対の意見などを述べていないか、気を付けて読みましよう。

読みやすく目立つカードを作る案もありますが、解答らんに合わないので、ここでは書けないことがわかります。

問題4

ここまでの会話文の内容をまとめているものをさがします。話し合いで決まったこととして、感想カードを書いてもらうこと、そのカードを校内のけい示板にはってもらうこと、カードは読んでもらうためのくふうをすることがありました。それが書かれているものは、ウです。

実際の話し合いの場面においても、司会役はテーマにそって話し合いが進むように調整したり、全体の意見をまとめたりします。司会の役わりについても理解しておきましよう。

問題

話すこと・聞くこと②

名前

年

組

次の文章は、方言についてクラスで話し合っている様子です。これを読んで後の問題に答えましょう。

田村.. 先日、家族で旅行に出かけたとき、駅に土地の方言で書かれたポスターがはってありました。方言には、共通語にはない親しさや温かさがあるように感じ、「来てよかった」と思いました。一方で、方言には「わかりにくい」「ちがった意味にとらえられることがある」など、よい点もあると思います。そこで、どのような場合に方言を使うとよいか、話し合いたと思います。

山本.. わたしは、よその地方の人と話すときは、方言を使わないほうがよいと思います。おたがいがその地方の方言を使うと、意味が正しく伝わらないと思うからです。

松田.. 明治時代に九州の人と東京の人とが会ったとき、まるで言葉が通じなかったという話を聞いたことがあります。

大野.. 方言を使って話すと、その言葉を使っている人どうしの安心感や連帯感が生まれると思います。一方で、それを使わない人を受け入れないようなふんい気にもなります。だから、方言はその土地の人と話すときに使うとよいと思います。

山本.. 賛成です。わたしは、二年生のときに転校してきましたが、方言が理解できず、仲間はずれにされたように感じたことがあります。

松田.. 方言を使うときは、相手のことを知らなければいけないことですね。

田村.. たしかにそうですね。では、知らない人に方言を使うのはやめたほうがよいのでしょうか。

大野.. ① そうではないと思います。例えば、その地いきのよさを伝えるために方言を使うとよい場合があつて、それが田村さんが見たポスターの事例ではないでしょうか。また、方言には、もうひとつ大事な役わりがあると思います。(②)。

田村.. 地いきの中の親近感を強めることもありそうですね。

山本.. つまり、方言は使っても誤解されることのない相手と話すときや、方言を知らない人に、「こんにちは」「ありがとう」などを方言で表すことで、親しみをもってもらうときに使うとよいということですね。

松田.. 賛成です。だれかと話すときは、おたがいの気持ちを正しく伝え合うことが大切だと思います。場面や相手によって、うまく使い分けることで、それができるとよいですね。

問題1

方言を使わないほうがよいことを示す実際の事例として、本文に書かれた事がらを二つ、まず目にあてはまるように書きましょう。

と

とが会ったとき、まるで言葉が

通じなかった。

にされたように感じることもある。

問題2

方言には、どのようなよさがありますか。本文に書かれていることを□にあてはまるようにして三つ書きましょう。

・ 共通語にはない

がある。

・ 使っている人どうしの

が生まれる。

・

を知ってもらうために使うとよい場合がある。

問題3

——①「そつではないと思います」とは、どんなことが、「そつではない」のでしょうか。もっともふさわしいものを、ア～エから選んで記号を書きましょう。

ア その地方の方言を知らない人には、共通語で話しかけるべきだということ。

イ 方言を使うときは、先に相手が住んでいる場所を確かめるほうがよいこと。

ウ その地方の方言を知らない人には、方言を使わないほうがよいこと。

エ まず、共通語で話してから、少しずつ方言を混ぜて話したほうがよいこと。

問題4

（②）□にあてはまる言葉として、もっともふさわしいものを、ア～エから選んで記号を書きましょう。

ア それは共通語にはない、その地いき独特の感覚を伝え合えることです。

イ それは共通語のほうが正しくわかりやすいということです。

ウ それは共通語よりも意味がいまいでわかりにくいということです。

エ それは共通語に比べて表現が豊かで、どんな人にも伝わりやすいことです。

解答と解説

問題1 方言を使わないほうがよいことを示す実際の事例として、本文に書かれた事らを一つ、まず目にあてはまるように書きましよう。

九州の人と東京の人とが会ったとき、まるで言葉が通じなかった。

仲間はずれにされたように感じることがある。

問題2 方言にはどのようなよさがありますか。本文に書かれていることを□にあてはまるように三つ書きましよう。

・共通語にはない 親しさや温かさ がある。

・使っている人どうしの 安心感や連帯感 が生まれる。

その地いきのよさ を知ってもらうために使うとよい場合がある。

問題3 ①「そうではないと思います」とは、どんなことが、「そうではないのでしょ

うか。もっともふざけいものを、ア／エから選んで記号を書きましよう。
ア その地方の方言を知らない人には、共通語で話しかけるべきだということ。
イ 方言を使うときは、先に相手が生んでいる場所を確かめるほうがよいこと。
ウ その地方の方言を知らない人には、方言を使わないほうがよいこと。
エ まず、共通語で話してから、少しずつ方言を混ぜて話したほうがよいこと。

ウ

問題4 (2)にあてはまる言葉として、もっともふざけいものを、ア／エから選んで記号を書きましよう。

ア それは共通語にはない、その地いき独特の感覚を伝え合えることです。
イ それは共通語のほうが正しくわかりやすいということです。
ウ それは共通語よりも意味があいまいでわかりにくいということです。
エ それは共通語に比べて表現が豊かで、どんな人にも伝わりやすいことです。

ア

K-5-02B

問題1

文章には方言を使うとよい場合や、よくない場合のことが書かれています。実際の事例を答えることに注意ましよう。本文中に出てきた事例をさがすと、松田さんの発言にある明治時代の話と、山本さんの発言にある、自分の経験の話が見つかります。そのほかの部分で、「方言を使わないほうがよい」と書かれているのは、すべて発言した人の意見で、実際の事例ではありません。

問題2

方言のよさについて書かれた部分をさがましよう。まず、初めの田村さんの発言に「方言には、共通語にはない親しさや温かさがあるように感じ」とあります。次に、大野さんの発言に「方言を使って話すと、その言葉を使っている人どうしの安心感や連帯感が生まれる」とあり、さらに大野さんは「その地いきのよさ

を伝えるために方言を使うとよい場合があって」と発言しています。この三つのことを本来の言葉を使って、解答らんにあてはまるように書きましよう。

問題3

「そうではない」の、「そう」の内容を考えます。大野さんの発言の前に、田村さんが「知らない人に方言を使うのはやめたほうがよいのでしょうか」と述べています。つまり、大野さんは「知らない人には方言を使うのをやめたほうがよいわけではない」と話しているのです。その事例が、会話文の初めに出てきた、田村さんが旅行先の駅で見たポスターです。方言を知らない人でも、方言で書かれたポスターを見ることが、その土地や地いきに親しさや温かさを感じることがあり、そのような使い方であれば、知らない人に方言を使ってもよいと述べています。答えはウです。

問題4

方言の役わりについて考えます。イは、共通語について書かれているので、まちがいです。ウも、役わりについて書いてあるものではありません。エには「どんな人にも伝わりやすい」とあり、これは共通語のことです。正解はアです。方言は地いきの独特の感覚を伝え合えるもので、それを聞いた田村さんが、「地いきの中での親近感を強めることもありそう」と述べているのです。

問題

書くこと

名前

年

組

次の文章を読んで、後の問題に答えましょう。

ふだんの生活の中で、「こうしたほうがよい」と思うことや、気付いたことはありませんか。
田村さんは、公園での遊び方について、次のような意見文を書き、クラスで発表しました。

【A】 田村さんの意見文

公園で遊んでいると、ブランコなどの遊具に順番待ちの行列ができていることがあります。このようなときに、一年生くらいの人や、もっと小さな子がならんでいたら、先に使わせてあげてはどうでしょうか。わたしが小さかったときにも、同じように順番を待っていたことがあります。しかし、今よりも早く家に帰らなければならなかったし、ならんでいるうちにあきてしまつて、次からは公園に行きたくなくなった覚えがあります。小さな子たちがいやな思いをしないためにも、順番をゆずってあげるとよいと思います。何より、小さな子に親切にするのが、高学年の役わりではないでしょうか。

これを聞いた大野さんは、田村さんの意見に対して次のように発言しました。

【B】 大野さんの発言

高学年でも、早く帰らなければならぬことがあるので、どんな場合でも小さな子が先に使うべきだとは言えないのではないのでしょうか。
小さいから順番をゆずることは親切かもしれませんが、順番を守ることが大切なルールなので、それを教えてあげることも必要だと考えます。

これを聞いた田村さんは、大野さんの意見を参考にして、次のように書き直しました。

【C】 田村さんが修正した意見文

公園で遊んでいると、ブランコなどの遊具に順番待ちの行列ができていることがあります。このようなときに、一年生くらいの人や、もっと小さな子がならんでいたら、いっしょに遊んだり、先に使わせてあげたりしてはどうでしょうか。

自分もあまり時間がないこともあるので、どんな場合でも必ず順番を代わる必要はないと思います。しかし、小さな子に親切にすることは、高学年としての役わりなので、そのような場合でも「（ア）」などと声をかけるとよいのではないのでしょうか。もちろん、順番を守るのは大切なルールなので、そのこともいっしょに伝えることも必要だと思います。

問題1

【A】の田村さんの意見文について、①と②に答えましょう。

① 田村さんは、自分の意見を聞き手にわかりやすく伝えるために、どのような工夫をしていますか。もつともふさわしいものを、ア～エから選んで記号を書きましょう。

- ア 自分の友人の様子を話すことで、より具体的に伝わるようにしている。
- イ 自分の体験を話すことで、身近なこととして聞いてもらえるようにしている。
- ウ 自分が読んだ本の内容を話すことで、ほかにも同じ考えの人がいることを伝えている。
- エ 自分の想像したことを話すことで、同じことを思いうかべてもらえるようにしている。

☐

② 田村さんの意見文を次のようにまとめます。()にあてはまる言葉を、田村さんの意見文にある言葉を使って書きましょう。

公園の遊具などに行列ができていたら、小さな子に順番をゆずるべきである。なぜなら、
()
()役わりだからである。

問題2

【B】の大野さんの発言の中には、大野さん自身の意見が述べられています。それはどのようなことでしょうか。もつともふさわしいものを、ア～エから選んで記号を書きましよう。

- ア 小さな子に親切にするのは、高学年のわたしたちにとってあたり前である。
- イ 高学年でも、早く家に帰らなければならぬことがある。
- ウ どんな場合であっても、小さな子に順番をゆずるべきである。
- エ 順番を守るというルールを小さな子に教えてあげることでもある。

☐

問題3

(ア)にあてはまる言葉として、もつともふさわしいものを、ア～エから選んで記号を書きましよう。

- ア もうすぐ代わるからね。
- イ 今日はもう帰りましよう。
- ウ 明日もまた遊びましよう。
- エ ちゃんと列にならびましよう。

☐

問題4

【B】の大野さんの意見を聞いて、田村さんは【C】でどのように文章を修正したでしょうか。もつともふさわしいものを、ア～エから選んで記号を書きましよう。

- ア 大野さんの意見を取り入れるために、自分の考えをすべて変えるようにした。
- イ 大野さんの意見を引用しながらそれを否定して、自分の考えは変えなかった。
- ウ 自分の考えを大きく変えずに、大野さんの意見も取り入れるようにした。
- エ 自分の考えを大きく変えながらも、大野さんの意見も取り入れなかった。

☐

解答と解説

問題1 ④の田村さんの意見文について、①と②に答えましょう。

① 田村さんは、自分の意見を聞き手にわかりやすく伝えるために、どのような工夫をしていますか。もともとふざけたいものを、ア～エから選んで記号を書きましよう。
ア 自分の友人の様子を話すことで、より具体的に伝わっている。
イ 自分の体験を話すことで、身近なことに伝わるようにしている。
ウ 自分が読んだ本の内容を話すことで、ほかにも同じ考えの人がいることを伝えている。
エ 自分の想像したことを話すことで、同じことを思い浮かべてもらえるようにしている。

イ

② 田村さんの意見文を次のようにまとめます。()にあてはまる言葉を、田村さんの意見文にある言葉を使って書きましよう。

公園の遊具などに行列ができていたら、小さな子に順番をゆずるべきである。なぜなら、

問題2 ④の大野さんの発言の中には、大野さん自身の意見が述べられています。それはどのようなことでしょうか。もともとふざけたいものを、ア～エから選んで記号を書きましよう。

ア 小さな子に親切にするのは、高学年のわたしたちにとってあたり前である。
イ 高学年でも、早く家に帰らなければいけないことがある。
ウ どんな場合であっても、小さな子に順番をゆずるべきである。
エ 順番を守るというルールを小さな子に教えてあげることも必要である。

エ

問題3 (ア)にあてはまる言葉として、もともとふざけたいものを、ア～エから選んで記号を書きましよう。

ア もうすぐ代わるからね。
イ 今日のもう帰りますよ。
ウ 明日もまた遊びましよう。
エ ちゃんと列にならびましよう。

ア

問題4 ④の大野さんの意見文を聞いて、田村さんは④でどのように文章を修正したでしょうか。もともとふざけたいものを、ア～エから選んで記号を書きましよう。

ア 大野さんの意見を取り入れるために、自分の考えをすべて変えるようにした。
イ 大野さんの意見を引用しながらそれを否定して、自分の考えは変えなかった。
ウ 自分の考えを大きく変えずに、大野さんの意見も取り入れるようにした。
エ 自分の考えを大きく変えながらも、大野さんの意見も取り入れなかった。

ウ

問題2

大野さんの発言の中で、いちばん言いたいことはどの部分かを考えます。イの「高学年でも、早く家に帰らなければならないことがある。」も発言の中にありますが、これは多くの人にあてはまる事情を説明している言葉であって、いちばん言いたいことではありません。大事なのは、エの「順番を守るというルールを小さな子に教えてあげることも必要である。」で、これが大野さんの意見です。

問題3

修正した意見文ともとの意見文のちがいを読み取りましよう。もとの意見文では、小さな子には順番をゆずってあげるべきだとしていましたが、修正した後は、「どんな場合でも必ず順番を代わる必要はないと思います」となっています。その上で、小さな子に親切にすることは高学年としての役わり」としているのので、あてはまるのは、アです。順番を守りながら、小さな子に親切にするよう、なるべく早く代わってあげようとしています。

問題4

修正した意見文では、大野さんの意見である「順番を守るというルールを小さな子に教えてあげることも必要である」ことを結論に取り入れながら、自分の意見である「小さな子に親切にすることは、高学年としての役わり」であることもきちんと述べています。つまり、ウが答えです。

問題1

① 田村さんの意見文を読むと、「一年生くらいの人やもつと小さな子がならんでいたら、先に使わせてあげてはどうでしょうか」と読み手に問題を投げかけた後で、自分が小さかったころに同じような体験をしたことが書かれています。このように書くことで、読む人に身近な問題だととらえてもらうことができます。答えはイです。

② 田村さんの意見文をまとめる問題です。

「公園の遊具などに行列ができていたら、小さな子に順番をゆずるべきである。なぜなら、()役わりだからである。」とあるので、「なぜなら」の後には、小さな子に順番をゆずるべきだとする理由が入ります。そこで本文を見ると、「小さな子に親切にするのが、高学年の役わり」とあって、この部分が小さな子に順番をゆずるべきだという理由です。

意見を述べた文には、意見のほかに理由が書かれていることが多いので、それを読み取るようにしましょう。

問題

読むこと①

名前

年

組

次の文章を読んで、後の問題に答えましょう。

ア 森林は、あつさ寒さをやわらげます。森林の中は夏すずしく、そして冬はあたたかです。かんかん照りの真夏には、わたしたちも木かげですずみます。木のないところの風よりも、木立をとりぬけてくる風は、はるかに気持ちがいいですね。

またぎやくに、寒さのきびしい地方では、森林は農地を寒さから守っています。霜の被害もふせいでくれます。

イ 森林は、昼と夜とのきよくたんな温度の差も、やわらげます。たとえば、さばくを思いうかべてみてください。森林のないさばくでは、昼は真夏のようにあつく、夜になると、真冬のように寒くなります。

いったいなぜ森林は、気温を調節してくれるのでしょうか。それは①森林が生きものだからです。生きているのは、木や草ばかりではありません。土も生きています。土には植物の根があります。ありも、みみずもいます。かびのような小さな小さな生きものたちが、ほんのひとかけらの土の中に、何億も何十億もあつまっています。土は、そんな生きもののおかげです。そんな生きものたちが、水をすったり、はいたりしながら、自分のからだを守ろうとしています。

わたしたち人間も、外の気温が氷点下になったからといって、からだに氷になったりはしませんね。また夏には、からだがあせをかき、自分の体温を守ろうとしています。②それとおなじことなのです。

東京では、いま、真夏の日中、道路の気温は六十度にもはねあがっています。まるで熱帯のさばくです。緑もなく、土もなく、地下には地下水もないからです。そんなコンクリートばかりのところに、たくさんの人があつまって、火をつかっているからです。ガソリンをたいて、車を走らせているからです。

けれども、おなじ東京の皇居や森林のある公園では、おなじとき、気温は三十度そこそこです。森林の中と外とは、それほどちがいができています。

（富山和子「森は生きている」）

問題1

——アと——イに書かれた森林のはたらきを、ほかの言葉で表している部分があります。その言葉を、まず目にあてはまるように書きましょう。

森林は、

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

問題2

——①「森林が生きものだから」とありますが、森林が生きものであるとはどのようなことですか。もつともふさわしいものを、ア～エから選んで記号を書きましょう。

- ア 森林には、目に見えないが、かびのような小さな生きものがたくさんいるということ。
イ 森林の生きものは、水をすったり、はいたりして生きているということ。
ウ 森林の土の中には植物の根があり、ありやみみずがその周りでくらしているということ。
エ 森林には、草や木だけでなく、小さな生きものたちがあつまって生きているということ。

--

問題3

——②「それとおなじこと」とは、どんなことと、どんなことが同じなのですか。次の（A）と（B）にあてはまる本文の言葉を書きましょう。
生きものたちが、水をすったり、はいたりしながら（A）を守ろうとすることと、
（B）が自分の体温を守ろうとすること。

A

B

--

--

問題4

次の会話文は、川田さんと山岡さんが本文を読んだ感想を話し合ったものです。これを読んで、（ ）にあてはまる文をア～エから選んで記号を書きましょう。

川田…遠足などで山に行くと、空気がひんやりしていることがありますね。あれも森林のはたらきでしょうか。

山岡…そうですね。わたしも同じように感じたことがあります。道路の気温が六十度にもなるのに、東京の皇居や森林のある公園の気温は三十度くらいであることにもおどろきました。

川田…（ ）

山岡…緑を大切にしなければならない理由がわかったように思います。

- ア 街中にさらに森を造ることで、もつと気温を下げることできそうですね。
イ 森林と道路は、はなれて建設したほうがよいことがわかりますね。
ウ 街中にある森や公園にも、とても大切な役わりがあるんですね。
エ 森林の役わりは、多くの生きものを育てることですね。

--

解答と解説

問題1 —アと—イに書かれた森林のはたらきを、ほかの言葉で表している部分があります。その言葉を、まず目にあてはまるように書きましょう。

気温を調節してくれる。

問題2 —①森林が生きものだからとありますが、森林が生きものであるとはどのようなことですか。もちろむさわしいものを、ア・エが選んで記号を書きましょう。

ア 森林には、目に見えないが、かびのような小さな生きものがたくさんいるということ。
イ 森林の生きものは、水をすったり、はいたりして生きているということ。
ウ 森林の土の中には植物の根があり、ありやみみずがその周りにくわして生きているということ。
エ 森林には、草や木だけでなく、小さな生きものたちがあつまって生きているということ。

エ

問題3 —②「それとおなじこと」とは、どんなこと、どんなことが同じなのでしょう。次の生きものたちが、水をすったり、はいたりしながら、（A）を守ろうとすること、（B）が自分の体温を守ろうとすること。

A 自分のからだ

B（わたしたち）人間

問題4 次の会話文は、川田さんと山岡さんが本文を読んだ感想を話し合ったものです。これを読んで、（ ）にあてはまる文をア～エから選んで記号を書きましょう。

川田：遠足などで山に行くとき、空気がひやりとしていることがありますね。あれも森林のはたらきですね。

山岡：そうですね。わたしも同じように感じたことがあります。道路の気温が六十度にもなるのに、東京の皇居や森林のある公園の気温は三十度くらいであることにもどうもきまします。

川田：（ ）

山岡：緑を大切にしなければならぬ理由がわかったように思います。

ア 街中にさらに森を造ることで、もっと気温を下げることでさうです。

イ 森林と道路は、はなして建設したほうがよいことがわかります。

ウ 街中にある森や公園にも、とても大切な役わりがあるんですね。

エ 森林の役わりは、多くの生きものを育てることです。

ウ

かかれているのはエなので、エが答えです。

問題3

—②の「それとおなじこと」の「それ」とは何をさしているかを考えます。—②の前には、わたしたち人間が自分の体温を守ろうとしていることが書かれています。それと、土の中の生きものたちが、水をすったり、はいたりしながら、自分のからだを守ろうとしていることが同じだと言っているのです。問題の（A）、（B）にあてはまるように考えると、Aは「自分のからだ」、Bは「（わたしたち）人間」です。

問題4

本文を読んだ感想を話し合っている文章です。山岡さんは本文に書かれていた「森林のある公園の気温が三十度くらいであること」におどろいています。そして川田さんの（ ）の発言の後、山岡さんは「緑を大切にしなければならぬ理由がわかった」と話しています。この流れから、川田さんの発言を考えましょう。気温のことについて話しているのは、アですが、森林を増やせば気温がもっと下がるのは本文に書かれていません。イも、本文に書かれておらず、山岡さんの「緑を大切にしなければならぬ」ともつながりません。エも、前後の会話文とつながりません。そこで、正解はウです。街中にある森や公園には、気温を調節する大切な役わりがあると発言しているのです。

問題1

—アと、—イには、ともに森林があつて寒さなどの温度の差をやわらげることが書いてあります。これと同じ意味で使われている言葉をさがすと、その後「いったいなぜ森林は、気温を調節してくれるのでしょう」とあります。あつくも寒くもないように温度の差をやわらげるとは、気温を適度（ていど）に調節することなので、この部分が答えです。まず目にあてはまるようにすると、「気温を調節してくれる」となります。

問題2

「森林が生きものである」とは、どのようなことでしょうか。本文をよく読むと、森林とは木や草のほか、ありやみみず、かびのような小さな生きもののあつまりだと書かれています。アにはかびのことだけが書かれており、ウにはありやみみずのことだけが書かれています。また、イは生きものが生きているようすが書かれています。多くの生きものがあつまっていることが書

次の文章を読んで、後の問題に答えましょう。

（小森さんは山の中でなかまとはぐれてしまい、何日もまよっていたところに熊と出会った。）

「道にまよったっていうより、なかまからおいてきぼりをくっちゃったんですよ。ぼくは、ちよつと足をくじいたもんだから、すこしおくられて歩いていたんです。はじめのうちは、みんな親切でした。足に※こつやくはってくれたり、肩をかたかしてくれたりしました。でも、日が暮くれかけて、雨がぽつぽつふりだしたときには、みんなの足どりは、しぜんに早くなつてねえ、とうとう追いつけなくなつてしまいました。ぼくが、いくらよんでも。もうふりむいてもくれなかった……。

あしたは月曜日だから、仕事を休むわけにいかないんだって、たれかがいつてたっけ。

なんのかんのときれいごとをいったって、人間にんげんってのは冷たいもんです。けっきよくみんな、自分のことしか考えてないんだから。」

ふんふんと、熊はうなずきました。

「そこいくと、熊の世界なんかは、ずうつと人情にんじやうが厚あついっていうじゃありませんか。」

ところが、熊は、はげしく首をふりました。

「とーんでもないや。わしらの世界だつて、おんなじことですよ。」

「そんなもんですかねえ。」

「ああ、そんなもんです。」

ここで②話は、ぷつりと切れました。

どうやらこの熊も、胸むねの中に、なにかモヤモヤしたものをかかえているらしいのです。熊は、

③ため息をついて、ぽつりとつぶやきました。

「ほら、よくいうでしょ、弱肉強食じやくきやうしきつてやつですよ。」

「なるほど。」

あいづちをうちながら小森さんは、でも、こんなに大きな熊が、いったいなにに負けるんだろうかと思いました。するとこんな熊がしゃべりはじめました。

「早い話が、熊の世界じゃ、冬ごもりの穴あなひとつほるのだって、たいへんな競争です。いい場所は、みんな、※はしっこいのがさき取つてしまう。そのうえ、冬ごもりの前には、たっぷり食べておかなければならないが、これまた競争だ。競争がはげしくなったら、もう殺ころしあいですからねえ。そうなったら、友だちもしんせきもあつたもんじゃない。」

「でもあなたは、そんな大きなからだしてるんだから、ほかの熊に負けることはないでしょう。」すると熊は目をふせて、ほつりといいました。

「わしひとりなら、なんどでもなつたんだが、小さい娘むすめがいてねえ。」

「ほう、娘さんが……。」

「そう。やっぱり、足をくじいていたんですよ。」

これを聞いて小森さんは、すっかり熊に同情どうじやうしました。

※こつやく…はり薬のこと。

※はしっこい…機転がきき、すばしこい様子。

（安房直子「熊の火」『銀のくじやく』より）

問題1

――①「おんなじこと」とは、どのようなことが同じなのでしょう。本文の言葉を使つて
ます目にあてはまるように書きましよう。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

問題2

――②「話は、ぷつりと切れました」とありますが、どうして話が切れたのだと思われ
ますか。もっともふさわしいものを、ア～エから選んで記号を書きましよう。

- ア 小森さんは熊の言ったことがすぐには納得できず、返す言葉がみつからなかったから。
イ 小森さんの態度に熊がはらを立てて、会話を打ち切るつとしたから。
ウ 熊がおこった理由がわからず、小森さんはどうすればよいかわからなかったから。
エ 小森さんはひどく悲しんでいるが、熊はなぐさめるつもりがなかったから。

問題3

――③「ため息をついて、ぷつりとつぎやきました」とありますが、この様子から熊は
どんな気持ちでいると考えられますか。もっともふさわしいものを、ア～エから選んで
記号を書きましよう。

- ア 何も知らない小森さんを、どのようにごまかそうかとなやんでいる。
イ 自分のことはだれにも理解してもらえないとあきらめている。
ウ ふだんは話さない、自分のことやもやしたことを聞いてもらおうと思っている。
エ だれかと話すのがひさしぶりなので、うまく話せるかときんちようしている。

問題4

この文章の中で、小森さんの気持ちはどのように変わったでしょうか。もっともふさ
わしいものを、ア～エから選んで記号を書きましよう。

- ア 熊は人間よりも情が厚いと思っていたが、人間にはそれよりも深いやさしさがあると思った。
イ 人間は勝手に自分のことしか考えないと思っていたが、親切な人もたくさんいると思い直した。
ウ 大きな熊は強いものと思っていたが、人間と同じで弱い面があると知って同情的になった。
エ 熊の社会には競争がないと思っていたが、人間の社会と同じように弱肉強食だと知って安心した。

☐☐☐

これは見本です

解答と解説

問題1 — ①「おんなじこと」とは、どのようなことが同じなのですか。本文の言葉を使って
まず目にあてはまるように書きましょう。

自分のことしか考えてないこと

問題2

— ②「話」は、ぶつりと切れました」とありますが、どうして話が切れたのだと思われ
ますか。もっともふさわしいものを、ア～エから選んで記号を書きましょう。
ア 小森さんは熊の言ったことがすぐには納得できず、返す言葉が浮かばなかったから。
イ 小森さんの態度に熊がはらを立てて、会話を打ち切ろうとしたから。
ウ 熊がおこった理由がわからず、小森さんはどうすればよいかわからなかったから。
エ 小森さんはひどく悲しんでいるが、熊はなぐさめるつもりがなかったから。

ア

問題3

— ③「め息をついて、ぼつりとつぶやきました」とありますが、この様子から熊は
どんな気持ちでいると考えられますか。もっともふさわしいものを、ア～エから選んで
記号を書きましょう。
ア 何も知らない小森さんを、どのようにごまかさうかと考えている。
イ 自分ことはだれにも理解してもらえないとあきらめている。
ウ ふだんは話さない、自分のことやしたことを聞いてもらおうと思っている。
エ だれかと話すのが久しぶりなので、うまく話せるかとドキドキしている。

ウ

問題4

この文章の中で、小森さんの気持ちとはどのように変わっていったでしょうか。もっともふ
さわしいものを、ア～エから選んで記号を書きましょう。
ア 熊は人間よりも情が厚いと思っていたが、人間にはそれよりも深いやさしさがあると思っ
た。
イ 人間は勝手に自分のことしか考えていないが、親切な人もたくさんいると直した。
ウ 大きな熊は強いものと思っていたが、人間と同じく弱い面があるを知って同情的になった。
エ 熊の社会には競争がないと思っていたが、人間の社会と同じように弱肉強食だと知って安心した。

ウ

問題1

— ①の前の文章から考えます。小森さんが「熊の
世界なんかは、ずうっと人情が厚い（あつ）というじゃあり
ませんか。」と言ったことにに対し、熊は、はげしく首を
ふって「とんでもない」と言っています。つまり、熊
の世界も人情が厚いわけではなく、「人間（にんじょう）つてのは冷
たいもんです。けっきよくみんな、自分のことしか考
えてないんだから。」という小森さんの発言と同じだと
言っているのです。まず目の数からあてはまることを
選ぶと、熊にとって「おんなじこと」なのは、「自分の
ことしか考えてない（こと）」になります。

問題2

小森さんは、熊の世界は人情が厚い（あつ）と思っていたの
に、それをちがうと言われたことにとまどってしま
いました。そこで、「そんなもんですかねえ。」と確（た）かめ
たところ、「ああ、そんなもんです。」とつきはなされ
てしまったのです。小森さんは熊の言葉をすぐに受け

入れることができず、どのように話しを続けられよい
のか、わからなくなってしまうたのです。このことか
ら、答えはアです。

問題3

熊が話したことは——③の後に書かれていて、その
内容は、熊の世界が弱肉強食であることや、自分には
足をくじいた小さい娘（むすめ）がいることでした。熊は、
③でため息をついてから、自分のことを話し出したの
です。答えはアです。アには「ごまかさうかとやん
でいる」とありますが、熊は小森さんを「ごまかさうと
していません。イには「理解（りかい）してもらえないとあきら
めていた」とありますが、熊は自分のことをわかって
もらおうと話しています。エには「きんちようしてい
る」とありますが、そのような様子は本文に書かれて
いません。

問題4

問題文には、「小森さんの気持ちはどのように変わっ
たでしょう」とあるので、気持ちの変化（変わる前と変
わった後）をしっかり読み取って答えましょう。
アは、後半の「人間にはそれよりも深いやさしさ
がある」と思ったが、本文に書かれていません。イも、
後半の「親切な人もたくさんいる」と思い直した」が、本
文に書かれていません。エの後半は「人間の社会と同
じように弱肉強食だと知って安心した」がちがって
います。答えはウです。